

平成27年度病虫害発生予察予報第2号（5月）

平成27年5月8日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生量
水稻	イネミズゾウムシ	平年並
かんきつ類	黒点病 カメムシ類	やや多 平年並
抑制・促成キュウリ	べと病 うどんこ病 つる枯病 褐斑病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	平年並 平年並 やや多 平年並 平年並 平年並～やや多 多
促成ナス	灰色かび病 うどんこ病 黒枯病 すすかび病 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ ホコリダニ類	やや多 平年並 多 平年並 少 平年並 多
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ タバココナジラミ	やや多 やや多 やや少 少 やや少 平年並
促成トマト	すすかび病 葉かび病 うどんこ病 タバココナジラミ	平年並 多 平年並 平年並

I 気象予報（高松地方気象台 4 月 30 日発表）

＜予想される向こう 1 か月の天候＞ 5 月 2 日から 6 月 1 日

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう 1 ヶ月の平均気温は、高い確率 50％です。2 週目は、平年並または高い確率ともに 40％です。3～4 週目は、平年並または高い確率ともに 40％です。

＜向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1 ヶ月	四国地方	気温	10	40		50
		降水量		30	40	30
		日照時間		30	40	30

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1 週目	四国地方	10	40		50
2 週目		20	40		40
3～4 週目		20	40		40

＜予報の対象期間＞

1 ヶ月：5 月 2 日（土）～6 月 1 日（月）

1 週目：5 月 2 日（土）～5 月 8 日（金）

2 週目：5 月 9 日（土）～5 月 15 日（金）

3～4 週目：5 月 16 日（土）～5 月 29 日（金）

II 病虫害発生予想

1 水稻の病虫害

1) イネミズゾウムシ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1) 防除適期決定圃における調査では 4 月末から食害が見られている。

(2) 向こう 1 か月の気象予報では気温が高めと予想されているため、活動が活発になると考えられる。

対 策

(1) 箱処理剤による防除を行う。

2 かんきつ類の病虫害

1) 黒点病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

(1) 前作の巡回調査では、ほぼ全てのほ場で発生が見られていた。

対 策

(1) 感染は、枯れ枝上に形成された胞子が降雨により分散することにより起こるので、

落弁期以降、200～250mmの降水量を目処に薬剤防除を行う。

2) カメムシ類

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1) 県下4カ所（安芸市、香美市、須崎市、四万十市）で実施しているフェロモントラップによる調査では、いずれの地域でも4月から誘殺が見られている。香美市、四万十市など5月上旬に誘殺数が増加した地点もあり、今後の発生に注意する。

対 策

(1) 開花期に加害されると落花するため、ほ場内での発生に注意し、飛来を確認したら薬剤防除を行う。

3 抑制、促成キュウリの病害虫

1) ベと病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域も発生面積は平年並であったが、既発ほ場を中心に病勢の進展が見られた。

(2) 向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、新たな発生は少なく、病勢も進展しにくいと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部、西部で平年並、中西部では少発生であり、県中央部の一部では発病程度の高いほ場も見られた。

(2) 向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、新たな発生は少なく、病勢も進展しにくいと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件でも発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。

3) つる枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部でやや多め、中西部は多発生、西部では平年並であった。県中西部、西部では病勢が進展したほ場も見られた。

(2) 向こう 1 か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、新たな発生は少なく、病勢も進展しにくいと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

4) 褐斑病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で多発生、中西部は平年並、西部ではやや多めの発生であり、県西部では発病程度の高いほ場も見られた。

(2) 向こう 1 か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、新たな発生は少なく、病勢も進展しにくいと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

5) 黄化えそ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域でも、平年に比べると発生面積は少ないものの、病勢の進展により作を終了したほ場も見られた。

(2) 気温の上昇にともない、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになることから、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

(1) ミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、本病の発生株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

6) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並～やや多

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部、西部で平年並、中西部では多発生であった。薬剤防除中心のほ場では、密度増加が見られた。

(2) 気温の上昇にともない、増殖が盛んになると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

7) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部で多発生、中西部は平年並、西部では少発生であった。いずれの地域でも低密度の発生であり、すす病の発生は見られなかった。

(2) 気温の上昇にともない、増殖が盛んになると考えられる。

対 策

(1) タバココナジラミは上位葉に卵を産みつけるので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心にウララDF、コルト顆粒水和剤などで防除を行う（本県全域に分布していると思われるタバココナジラミバイオタイプQは合成ピレスロイド剤、ネオニコチノイド剤の防除効果が低い）。

4 促成ナスの病害虫

1) 灰色かび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部、中央部でやや多、西部では平年並の発生であり、県東部では病勢の進展が見られた。

(2) 向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展しにくいと思われるが、やや多めの発生が続くと考えられる。

対 策

(1) ハウス内湿度の低下に努めるとともに、罹病果をほ場外に持ち出し処分する。

2) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年並、中央部、西部では多発生であった。いずれの地域も発病程度の高いほ場は見られなかった。

(2) 向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展しにくいと考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件でも発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

3) 黒枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

(1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。いずれの地域も発生面積は多発生、発病程度も高く、県東部では落葉するほ場も見られた。

(2) 向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展しにくいと思われるが、多発状態が続くと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

(2) 罹病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) すずかび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。県東部では発生面積、発病程度とも平年並であったが、中央部、西部では平年に比べ発生面積も多く、発病程度も高かった。

(2)向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展しにくいと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

(2)罹病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：少

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られたが、いずれの地域も発生面積は少なく、密度の高いほ場も見られなかった。

(2)ほとんどのほ場でタバコカスミカメが導入されているため、少発生が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部、中央部では平年並、県西部では平年より少なめの発生であった。県中央部では平年に比べ寄生密度が高かったが、1葉あたりの寄生頭数は僅かであり、問題となる発生ではなかった。

(2)ほとんどのほ場でタバコカスミカメが導入されているため、密度の増加はないと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

7) ホコリダニ類

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が確認され、発生面積はいずれの地域でも平年より多く、県中央部では寄生密度が高いほ場も見られた。

(2)天敵、農薬による防除が困難な害虫のため、既発ほ場を中心に多発傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底する。

(2)薬剤防除を行う場合、生長点付近を中心にたっぷりと薬剤散布を行う。また、発生株だけでなく、周辺の株も防除を行う。

5 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多
根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年並、中央部でやや多め、中西部では多めの発生であった。発病程度も既発ほ場を中心に増加傾向にある。
- (2)向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展しにくいと思われるが、やや多めの発生が続くと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件での発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや多
根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県東部で平年並、中央部は多発生、中西部ではやや多めの発生であった。発病程度はいずれの地域も高く、先月に比べ病勢の進展が見られた。
- (2)向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展しにくいと思われるが、やや多めの発生が続くと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少
根 拠

- (1)巡回調査では県中央部、中西部で発生が見られた。県中央部では平年に比べ発病程度が高かったが、一部のほ場でのみの発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展しにくいと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：少
根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で見られたが、いずれの地域でも問題となる発生は見られなかった。
- (2)気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、天敵の数が減少しているほ場では密度が増加する恐れがあるので注意する。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

5) ヒラズハナアザミウマ

予 想 発生時期：平年並／発生量：やや少

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られたが、いずれの地域でも問題となる発生は見られなかった。

(2)気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、天敵の数が少ないほ場では密度が増加する恐れがあるので注意する。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で見られたが、いずれの地域も発生面積は平年並であった。県中央部では寄生密度の高いほ場も見られたが、先月に比べ密度は低下した。

(2)気温の上昇にともない増殖が盛んになるため、天敵の数が少ないほ場では密度が増加する恐れがあるので注意する。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。

6 促成トマトの病害虫

1) すすかび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

(1)巡回調査では一部のほ場で発生が見られたが、下葉中心の発生であった。

(2)向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展しにくいと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。また、本病は葉かび病に酷似するので、防除薬剤の選定に注意する。

2) 葉かび病

予 想 発生時期：平年並／発生量：多

根 拠

(1)巡回調査では一部のほ場で発生が見られた。下葉中心の発生であったがCF桃太郎ファイトなど、葉かび耐病性品種での発生も確認されている。

(2)向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展しにくいと思われるが、既発ほ場を中心に多発傾向が続くと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。また、本病はすすかび病に酷似するので、防除薬剤の選定に注意する。

3) うどんこ病

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では一部のは場で発生が見られたが下葉中心の発生であった。
- (2)向こう1か月の気象予報では晴れの日が多いと予想されているため、病勢は進展しにくいと考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生時期：平年並／発生量：平年並

根 拠

- (1)巡回調査では一部のは場で発生が僅かに見られ程度であった。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③病害虫発生予察技術資料
- ④新しく問題となっている病害虫 etc.

こうち農業ネットサービス※

- ・携帯電話を使った病害虫関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info> (Iモード)

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報 (ezweb)

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：(ヤフー)

- ①病害虫発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります